

国際ワークショップ

「ヨーロッパ福祉国家における高齢者ケア：変わりゆく家族の役割」

ヨーロッパの福祉国家では、介護制度が整備されて多くの年月が経過しました。現在、財政抑制が強化される中、虚弱高齢者、特に認知症高齢者が増え、家族が担う介護の役割に新たな関心が集まっています。今回、ドイツから第一線の専門家2人を迎え、こうした傾向を検討するとともに、しっかり時間をかけて、日本への示唆を議論していきます。

日時：7月16日(水) 午後2時～4時

場所：本郷キャンパス 工学部第11号館1階 講堂

講演者

ヨーロッパ福祉国家の新概念：家族による介護労働

Birgit Pfau-Effinger：ハンブルグ大学 グローバリゼーション・ガバナンスセンター 教授
南デンマーク大学 福祉国家研究センター 教授

民間型と公共型の家庭的ケア：ドイツの変わりゆく包括ケア提供形態

Hildegard Theobald：ヴェヒタ大学 老年医学研究所 教授

討論者

上野千鶴子：東京大学 名誉教授

司会

John Creighton Campbell：ミシガン大学 名誉教授
東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員

注意：ワークショップは英語で行われますが、スライドは日本語に翻訳されたものを使います。

お問い合わせ

東京大学高齢社会総合研究機構

東京都文京区本郷 7-3-1 工学部 8号館 713号
03-5841-1662 (TEL/FAX) ✉seminar@glafs.u-tokyo.ac.jp
<http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>

